

筋骨めぐり

下呂市金山地区の狭い路地や路地裏は過去への入り口であり、住宅や店先に地元の歴史と文化が息づいています。この迷路のような街並みは筋骨と呼ばれています。筋骨とは「筋肉と骨」を意味し、街全体が一つの生命体であるかのように、筋のような通路が相互につながっている様子を指します。

岐路に立つ街

金山は飛騨川と馬瀬川の合流点に位置します。江戸時代（1603 年-1867 年）、この町は 4 つの藩間の中継地として栄え、旧国飛騨と美濃（どちらも現在の岐阜県の一部）の境界に位置していました。この立地によりこの町は地域の旅と商いの重要な拠点となりました。

方向を知る

筋骨は飛騨川東側の JR 飛騨金山駅から西側の迷路のような路地まで、町並み全体に曲がりくねって整備されています。公式地図は駅で入手でき、金山の最も重要な歴史的、文化的、商業的名所の多くを通る曲がりくねった道が赤で示されています。

歩いていくと大正（1912 年-1926 年）および昭和初期（1926 年-1945 年）の建築物を見かけるでしょう。筋骨めぐりはとても面白いコースで、時には建物の間の狭い隙間をすり抜けたり、頭をかがめて小川の両側にまたがる古い住宅の下を通ったりすることもあります。

発見の迷宮

1988 年に廃業した廃銭湯が西側にあります。内部は見学可能で、20 世紀中ごろのタイムカプセルのような装飾や看板が残されています。このルートは秋の紅葉で有名な小さな山、近くの鎮守山につながります。金山の景色を望む山で、慈悲の女神、観音を祀るお堂や古代の伝説の戦士、両面宿儺の像があります。

飛騨川の西側にあるこのエリアでは酒蔵、画廊、骨董品店、ケーキや和菓子を専門とするお店など、地元の施設をめぐることができます。他の区画は裏通りの周りや石の階段を下ったところにあります。時が止まったようなもう一つの遺物、3 階建ての建物「清水楼」が街並みの中にそびえたっています。一方、金山巨石群リサーチセンターは地元の巨石に関する資料や資料を収集する現代的な施設です。

その他の注目のランドマーク

筋骨の一部は馬瀬川にかかる境橋をまたいでいます。橋のもとには最初の近代日本地図を完成させたことで有名な地図製作者、伊能忠敬（1745 年-1818 年）の業績を記念する銘板があります。伊能は 1814 年にこの場所で旧飛騨国の調査を開始しました。

駅から飛騨川に向かう別の道はかつての船着き場の跡地に通じており、現在は川を見渡す景勝地になっています。1928年に近くに金山橋が建設されるまで、地元の人々は鉄道駅のそばの東部エリアと西部の商業地区の間を渡るのに舟で往来していました。

ガイド付きツアー

英語ツアーも利用可能で所要時間は約 90 分から 120 分です。知識豊富な地元ガイドが筋骨の隠れた宝物を見逃さないように案内します。